

# マリレジャー安全レポート

第34号(平成20年5月)

第七管区海上保安本部  
マリレジャー安全推進室  
TEL 093-321-2931  
E-mail:kyuunan-7@kaiho.mlit.go.jp



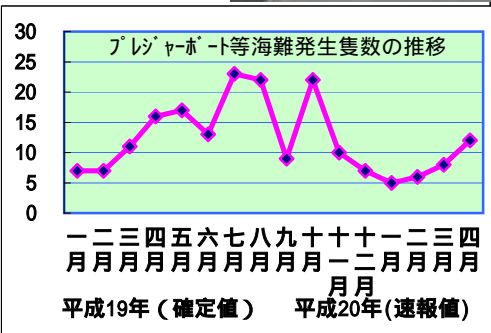
## 飲みすぎに注意しましょう!

平成20年4月 プレジャーボート等 海難発生隻数	
<b>合計 12隻</b>	
衝突	4
乗揚	1
転覆	0
浸水	0
推進器障害	3
舵障害	0
機関故障	2
火災	0
爆発	0
行方不明	0
運航阻害	1
安全阻害	0
その他	1

4月25日午前8時頃、Aさん(事故者)が、釣竿を準備している姿を父親に確認されていましたが、Aさんは翌26日になっても帰宅しないことから、家族が警察に通報し、警察と近隣住民が長崎県野母埼漁港の沿岸部を捜索していたところ、午後5時頃、漁港防波堤のテトラポッドの間に倒れ、既に死亡しているAさんが発見されました。Aさんは、普段も朝から酒を飲み、同防波堤付近で釣りをしているのを目撃されていまして、以前にも防波堤テトラポッドから転落したことがあるとのことで、事故当時も**酒に酔った状態で**テトラポッドを移動中に誤って足を踏み外し、防波堤とテトラポッドの間に転落、**事故当時が満潮**であったため、自力で這い上がることができずに力尽きて溺死したものと推定されます。



**～事故からの教訓～**  
事故者は防波堤のテトラポッドを移動中に誤って、転落した模様ですが、正常な状態でも**テトラポッドの移動は注意が必要です**。今回のように、酒に酔った中でのテトラポッドの移動は正に自殺行為に等しいものとなります。テトラポッドの移動には十分注意してください。また、**酒を飲んだ上での釣り場移動は非常に危険**ですので、絶対に止めましょう。



## マリレジャーの事故防止を電波を使ってPR!!

青葉に風薫る5月になり、マリレジャーにも適した季節となりました。今年のゴールデンウィークは好天にも恵まれたことから、各種レジャーを満喫されたことと思います。さて、海上保安庁や関係団体においては、ゴールデンウィークや夏季のマリレジャーが盛んな時期に安全推進期間を定め、プレジャーボート等乗船者の自己救命策確保の推進や、釣り愛好者に対する安全対策の推進を行っていますが、活動範囲は海上だけではありません。



(FM AQUA)

(FM KITAQ)



ゴールデンウィーク期間中の4月30日には山口県長門市のコミュニティFM(FM AQUA)において仙崎海上保安部警備救難課長が、また同じ日に福岡県北九州市のコミュニティFM(FM KITAQ)において(社)九州北部小型船安全協会専務理事の大迫氏が出演し、聴取者の方々にマリレジャー中における事故防止などについて語りかけるという取り組みも行いました。

## ゼンリン地図の資料館で 海図展 海図の歴史を眺める

5月1日から「海の地図と伊能図」をテーマに北九州市にあるゼンリン「地図の資料館」(リバーウォーク北九州14階)で海図展が始まりました。海上保安制度創設60周年記念行事の一環として、関門海峡、福岡湾、別府湾、佐伯湾、対馬、壱岐などの伊能図、明治時代などに刊行された海図、現在の海図を対比して海図の変遷を紹介しています。

海図のほか、測深図や測量原図といった海図になる前の諸資料、六分儀や錘など測深・位置記入などに使う器具も展示されています。地図に関するミュージアムなので、特に地図や海図などに興味のある方が訪れます。中には2時間近くご覧いただく方、閉館時間になって「時間が足りない」と名残惜しく帰途につく方もいました。海図展は、5月30日まで(土・日・休日は休館)開催しています。

「ゼンリン地図の資料館」常設展示室の入館料として  
大人(高校生以上)100円、小人(中学生以下)無料



### 海上保安庁では明治初期に模写した伊能図を147枚所蔵しています。

江戸時代の測量家、伊能忠敬が作成し、「幕府に上呈した伊能図」及び「明治政府に献納した伊能図」とも全て焼失し、模写図等で伝えられるのみであり、模写図であってもその価値は高いといわれています。今回展示の図は、これらの中の一部で、1800年代の初め頃の北部九州の海岸線の状況や当時の地名などを知ることができます。



### 海図ができるまで

海図のない時代は、海から見える岬や山頂などが目標物となり、安全な航海を助けていました。正確な海岸線に山頂の位置が確保された山の遠景図が描かれた伊能図、改めて見るとまさに当時の海図とみなせるのではないのでしょうか。

また、現在では音響測深やレーザーで面的な測量ができますが、昔は船の上から錘の付いたロープを海底まで下ろして測る方法でした。それは言うほど簡単なことではなく、手早く位置を測らなければ、船は移動するし、波や潮流でロープも緩む。気が遠くなるほどの回数をこなし、一点一点水深を得ました。明治時代の海図を見れば、びっしりと書き込まれた数字が水深です。その一つ一つは活字のように見えますが、すべて手書きによる文字です。

海図には先人のすばらしい業績が凝縮した歴史の重みを感じます。時間がとれるならぜひ一度ご覧ください。